

9月26日(水)～10月25日(木) 満月セレクト

— 今回のセレクトアーティスト —

Music Selector : ピーター・バラカン



ぼくがキュレーターを務めるフェスティバル、「Live Magic」の出演者から5枚のCDを選びました。今年で5周年を迎えるこのイベントは、10月20日(土)、21日(日)、恵比寿のガーデンプレイスのガーデンホールとガーデンルームで行います。いろいろな国から素晴らしいミュージシャンがやって来ます。新しい音楽との出会いをお楽しみください。

今回のセレクトCD

- 

1. Jon Cleary / Dyna-Mite (FHQ / 008)
高校を卒業した途端に憧れのニュー・オーリンズへ移住し、その後56歳の現在に至るイギリス出身のピアニスト/ヴォーカリスト、ジョン・クリアリー。独特のファンキーな演奏としゃれたソングライティングで評判の彼は4年ぶりの来日を果たします。今回のライブ・マジックでは、このアルバムにも参加している同じくキーボードとヴォーカルのナイジェル・ホールがスペシャル・ゲストとして登場します。
- 

2. Noam Pikelny / Universal Favorite (Rouner / 8 88072 02310 9)
弦楽器だけのアンサンブルに対する既成概念をことごとく覆してしまうパンチ・ブラザーズのバンジョーを担当するノーム・ピケルニー。もちろんカントリーやブルーグラスが彼の音楽の根幹にありますが、ジャンルのどう括っていいかわからない演奏もあり、バンジョーでここまでのメロディ展開が珍しい、この楽器の第一人者と言っていいでしょう。また素朴で暖かみのある低めのヴォーカルが魅力です。フィドルの名人ステュアート・ダンカンと二人で来日します。
- 

3. Ky / Desespoir Agreeable (Ottava / OTVA0010)
フランス在住のアルト・サクソ奏者仲野麻紀と、中東の弦楽器ウードを演奏するフランス人ヤン・ピタールによるKy(キイ)は基本的に即興演奏を中心に活動しており、他の様々なミュージシャンとの共演も行っています。この最新アルバムでは主にエリック・サティの曲を取り上げ、自分たちの独自のサウンドで解釈していますが、その他にもプルトーニュ地方のフォークや、アラブの伝統曲やらバラエティーに富んだ演奏です。
- 

4. Flook / Flatfish (Flatfish / 002CD)
フルート奏者が二人、それにギターとバウロン(アイルランドの伝統音楽でよく使われる手持ちの太鼓)という編成のインストルメンタルのフォーク・グループ、フルック。女性一人含むメンバーはイングランド人とアイルランド人が二人ずつ。驚くほど躍動感溢れる演奏に人気が集まっています。特にバウロンを担当するジョン・ジョー・ケリーの手さばきには目を見張るものがあります。
- 

5. Garikayi Tirikoti / Munamoto (Prayer) (Mbira CD / MBIRA006)
ガリカイ・ティリコティは南部アフリカのジンバブエ出身で、ンビラと呼ばれる親指ピアノの演奏者でもあり、またこの楽器を製造する職人でもあります。微妙な倍音を多く含むこの素朴な楽器で奏でる反復のメロディはのんびりしていて、非常に中毒性が高いです。テクニクは一見簡単なようでも、実はガリカイ・ティリコティは相当高度な技術の持ち主です。ライブ・マジックでは仲間とのアンサンブルで演奏しますが、このアルバムは独奏です。